



はにやまひめのみこと
埴山毘売 命（榛名神社）

蓮の上にお立ちになり輪光を背に安寧を祈るお姿である。
ご開帳は、平成 20 年 4 月 6 日(日)。以前は 60 年に一度
のご開帳が、近年は 10 年に短縮。

◇散歩のみどころ

京王線めじろ台駅から、法政大学までの凡そ5kmの行程。駅から南へ暫く歩き、右へ曲がると国指定の欄田遺跡公園に着く。公園南側の急坂を下る途中に御獄神社がある。旧北野街道に出ると大巻観音堂に着く。北野街道へ出て東へ歩くと、左に子育地藏、山王坂交差点へと至る。さらに東へ。途中左に集合住宅が見えて来る。その入口近くに要石がある。そこから戻り、坂を上った所に石碑などがある。

山王坂から欄橋を渡り旧寺田道へ。碗倉を見たあと、道を左へ曲がるとおしやもじ公園がある。旧道へ戻り、左へ行くと榛名神社に着く。ここからさらに南へ歩き、三面六地藏、特本名号塔、常和牧場を見学する。鍛冶谷戸を過ぎ、新道に出て暫くすると縛られ地藏、名主の長屋門へと続く。さらに暫く歩き、法政大学へ。ここで解散。

●欄田地名考

欄田という地名は、大巻の雲光寺廃止以前に、欄塚（欄根塚）があったことからといわれている。

雲光寺跡は、現在のトヨタ学園欄田第三寮あたりといわれ、欄田中学校東側の水田の中に塚があったが、地主が水田にしてしまい塚の跡をみることはできない。

ちなみに、「桑都日記」や「新編武蔵風土記稿」に「往古欄の老樹あり後世枯朽し根株のみを残すよつて盤根を埋めて以つて塚を作る高さ七、八尺（約2mから二・五m）ばかり村名これによる」と記されている。

また「多摩御陵周辺」逸見敏刀著にも「塚を田植えの前に綺麗に塗り上げる。もし粗末に塗ると其の年は不作になると伝えられていることから、村中総出で塗りあげている」と記されている。江戸時代の武蔵国多摩郡由井領には上と下の欄田が記され案内されている。それによると、

川原宿原宿、小名狭間、二軒在家、大牧の広範圍を欄田といい、現在の東・西・南浅川町、高尾町、狭間町、欄田町である。



欄田方面を望む

① 梶田遺跡 国

八王子盆地の南を囲む小比企丘陵の一角に位置する遺跡からは、石器時代の土偶、ナイフ形石器や縄文時代中期の竪穴住居跡四十五軒が発見されている。全体では三百軒以上の住居が存在すると思われる。径約百五十mの環状に展開する典型的な集落形態を示し、環状の内側には多数の土壇群がみられる。国の史跡に指定され、学術的価値の高い遺跡である。



梶田遺跡公園

● 神谷原遺跡

梶田遺跡群の中のひとつの遺跡で、縄文時代の中ごろのものである。ここでは、中央に広場をもち、その広場を環のように住居がとり囲んでいるムラの跡のほか、たくさんの土壇墓と倉庫か集会所と考えられる大きな建物の跡も見つかっている。



神谷原遺跡

● 滑坂遺跡

八王子市南部地区の開発のため調査されたもので、縄文時代中ごろの遺跡である。丘の頂をとり囲むように、長期に渡って住んだと思われる六十九軒の住居跡が見つかっている。縄文時代のムラの全体を知るためには、たいへん貴重な遺跡である。



滑坂遺跡



ポイント（左）と
ナイフ形石器（右2点）



縄文土器の変遷

弥生時代



●高杯（宇津木向原遺跡）



●壺（檜原遺跡）



●ガラス玉（宇津木向原遺跡）



●小型青銅鏡（宇津木向原遺跡）



●宇津木向原遺跡 8区11号住居出土土器



◎ 方形周溝墓群
(神谷原遺跡)



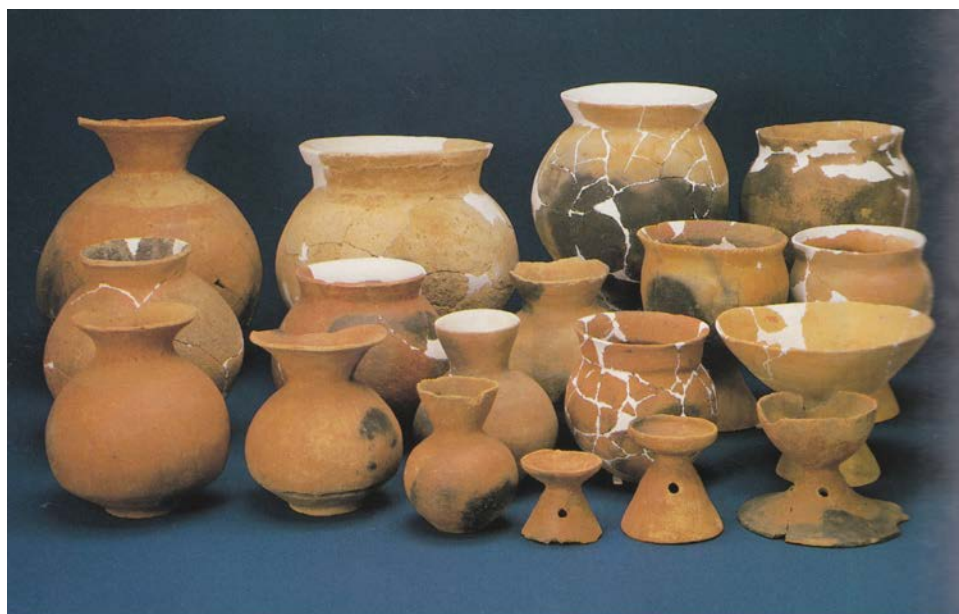
● 炭化米(神谷原遺跡)



● 鉋(上)・鎌(下) (神谷原遺跡)



● 炭化穀物(神谷原遺跡)



● 神谷原遺跡SB124号住居出土土器

②御嶽社

梶田四六〇

勸請 慶長年間（一五九六～一六一五）

祭神 日本武尊・素左鳴尊

例祭 八月二十八日

武州（青梅市）御嶽山頂の御嶽神社を勸請したと伝えられる。明治三十一年（一八九八）に社殿を改築、大正五年（一九一六）再建。以前には、神社参道の鳥居の左側の石にヌサ（幣）が立ててあり、紙には疱瘡神と書いてあったという。



御嶽神社

③大巻観音堂

大巻の地名は、梶田町南東地域の旧小名。大牧または大槓とも書かれ、昔はこの辺り一帯が牧だったという。

観音堂には、徳川中期の千手観音と如意輪観音が安置されている。敷地内には石碑（秋葉山）、二十三夜塔（右享和三癸亥天・左正月立つ）、馬頭観音（裏元禄九年子初夏代翁）それに地藏尊などの石仏が安置されている。また陰暦二十三日の夜の月待信仰もあったという。



大巻観音堂



大巻では千手様と言っている



大巻観音堂



大巻観音堂敷地内にある石碑と石仏



如意輪観音

④子育て地蔵

北野街道横山南市民センターバス停
近くに子育て地蔵が安置されている。
丸型・合掌坐像で

石柱右面に 文化十一年（二八一四）

戊戌十月日

正面に 地蔵菩薩

左面に 願主山口忠衛門

と刻まれている。

土地の古老の話によると、道路の
拡張工事の時もこの地蔵は動かされ
ていないという。

戦前までは一日と十五日に女性が
集まり子供が無事に育つようにと、
また戦時中には出征した我が子が無
事帰って来るようにと、夕方になる
とローソクを供え祈ったという。ま
た昔からの言い伝えでは子育て地蔵
の回りに咲いている白い花のツツジ
を折ると眼がみえなくなるといわれ
ていた。



子育て地蔵

⑤北野街道道標

石祠群跡

かつて、梶田バス停近くのちびっこ広場内に金網で囲んだ石祠群があり、庚申塔、馬頭観音、それに念仏供養塔などが安置されていた。現在は梶田運動場西側道路前の大貫宅畑にフェンスで囲まれ安置されている。

石祠は大六天で、右に明治七戌年（一八七四）八月□日建立、左に施主・大貫重次郎。庚申塔は柱状、右に文政九丙戌年（一八二六）、正面に庚申塔、左に八吉祥日と文字が書かれている。念仏供養塔は笠付き柱状で、右に当村善女二十二人、正面に為念仏供養塔也喝、左に畫石經大乘妙典一部畫□佐首、裏に貞亨内寅三年（一六八六）九月末日と彫られている。別の庚申塔には、浮き彫り青面金剛像で享保十三年（一七二八）十一月とある。これらの石祠は大船道路改修工事の折に集められたもの

と思われる。春先に黄色の蝶が飛んでくると、地元の人は大六天様のお使いだといっている。



山王坂の石仏

⑥山王坂

以前の山王坂周辺は、丘陵が突出し南に急な斜面が続いていた。めじろ台グリーンヒル通りの新道建設の折り丘陵地を削り現在の道路が完成した。まだ丘陵地だった頃、この付近に山王様の祠があったと聞くが定かではない。寺田街道の榛名神社に山王様が奉られている。他に八王子滝山線の大船町会館向かいの春日神社、さらに峠山観音堂でも山王様が祀られている。



山王坂交差点

⑦要石

地震を起こす大鯰の頭を押さえているといわれる。茨城県水戸市にある鹿島神社境内の要石をはじめ、地震の災害除けとして祀られた要石は日本全国にある。

八王子市栢田町の要石は、神谷原遺跡の方形周溝墓の南側崖下に昭和の初めまで頭だけ出していたという。現在は、山王坂交差点から北野街道を四百m程東へ行った集合住宅地庭園内の元の場所に埋め戻されている。

鎌倉時代、このあたりは横山党の一族が支配していたので、源頼朝の一大事「いざ鎌倉」となった時、この石が鳴りだし急を知らせたため「事を知らせる要石」ともいわれる伝説が残っている。さらに鎌倉や江ノ島弁財天にも通じているといわれている。この要石付近では、牛馬に水を飲ませる光景が、昭和の初め頃まで見受けられたという。



弘法の要石説明版



弘法の要石



工事中に掘られた要石



栢田町のレーベンスクエア
リマインドヒルズ前の要石

⑧湯殿川

館町の南端、多摩丘陵の起点にあたる小峰（追分）を水源とし、多摩丘陵と子安丘陵の間を東に流れ長沼町で浅川に注ぐ。長さ九・一km。小比企川または時田川とも呼ぶ。館町東北部で殿入川、寺田町で寺田川、片倉町で兵衛川と合流する。

「皇国地誌」によれば水源の地を堂側といい、殿入川と合流するまでを宮川と呼び湯殿川の本流は殿入川とされている。かつては、この川筋を遡って水源地の小峰に達する道があったが、拓殖大学の建設にともない廃道となっている。榎窪山から北へ延びる山稜上にある道の分岐点を追分と呼ぶ。多摩丘陵の地形上の起点にもなっている。高さ三百二十m、津久井町にある峰の薬師への武州側からの参道がこの地に集まっている。今も南浅川町梅の木平から榎窪川をさかのぼり峰の薬師入り口から追分に出る道がある。



寺田方面を望む



湯殿川（櫛橋より上流）

●寺田地名考と小字

今のグリーンヒル寺田入口の東側一帯が松山寺（廃寺）であったといわれている。松山寺は寺田町津ガ谷、臨濟宗山田広園寺末、開山年代は不詳。新編武蔵風土記稿にも松山寺跡と記され、古くは昌山庵といわれ安永年間（一七七二〜八一）に松山寺と改称されて後に廃寺となった。

昭和四十七年（一九七二）三月より一年間に渡り発掘調査を行った結果、柱穴群、遺物では陶磁器、鉄製品、人骨などおびただしい遺跡を発掘している。また、寺田川右岸には十二支になぞらえた地名が明治期の小字として載っている。昔、土地争いで寺田の農民たちの間で喧嘩が絶えず、皆仲良くなるようにと付けられたという。子の澤、丑三（すべる）、寅形、卯寝平、辰ケ窪、巳並田、未カ峰、申取、戌の里、亥走とあり、午と酉が抜けている。子の澤公園や午道は今も残っている。



寺田川周辺の風景



松山寺
(グリーンヒル寺田入口)

⑨お椀倉と庚申供養塔

下寺田入り口から榛名神社へ行く途中、旧寺田道にかつて立派な笠付き庚申塔が建っていた。供養塔の脇にも舟形石碑と棒状の石柱が土の中に埋まった状態で建っていた。ともに現在は榛名神社に移されている。

また、庚申塔の隣には、椀倉という小屋があった。今でも市内数力所に残っている。椀倉には、台所用品が何十人分も揃えられており、冠婚葬祭時など、村が共同で使用していた。



椀倉と云われていた小屋



庚申供養塔と一緒に榛名神社に移された小さな石碑拡大



庚申供養塔と小さな石碑

⑩ 寺田川

寺田町の東南の多摩丘陵中程に発し、東北に流れて大船町との境で布留川に合流、湯殿川に注ぐ。水源の丘陵地には法政大学多摩キャンパスが広がり、丘陵越えの車道も開通した。丘陵上の尾根道には車道をまたぐ大きな陸橋が架かり、川の右岸台地に日本住宅公団グリーンヒル寺田の住宅街がある。



寺田川

⑪ おしやもじ公園

寺田町三七四―四六

旧下寺田から榛名神社に向かい、旧道を出た所が旧寺田街道の四辻になっている。その四辻を子の澤公園に向かい、少し下ると寺田川に出る。その角がおしやもじ公園である。公園になる以前は、この辺りにおしやもじを祀る祠があったと伝えられている。おしやもじ様は、またの名をばばあ様ともいい、祠にいつもお杓文字が納められていたという。そのお杓文字を借りてご飯をよそって食べると立ちどころに風邪や喉の病が治ると言い伝えられていた。これと同じ風習は東浅川町の町田街道に架かる、中央線と京王線陸橋付近にも残っていたという。今は熊野神社におしやもじ様が奉られている。また、八王子市内には数カ所のおしやもじ信仰が残っている。

⑫ 榛名神社

祭神 埴山毘売命

例祭 四月第一日曜日

寺田町八三八

神社誌によると寛治年間（一〇八七―一〇九三）木部弾正が上州の榛名神社を奉斉し、応長元年（一二三一一―？）この地に勧請したと伝えられている。後に沢田仙右衛門により、朱塗りの本殿を再建、昭和四十一年（一九六六）荒廃した社殿を改築。



寺田おしやもじ公園

境内には、諏訪社、山王社、八坂社を祀り、雨乞いの信仰で知られている。鳥居から石段中央右側に石仏が安置されている。

右側の供養塔には

右に寛保三年（一七四三）

癸亥天八月

正面に奉納太乗妙典六十六部

日本回国

左に施主 直翁了□

左側は庚申塔がある。

右に文化十二年（一八一五）

乙亥歳四月吉日

左に武州多摩郡寺田村

（基壇左右に名有り）

三猿が幾何学文様に配置され、表面が欠け落ちている。

その他境内には、秋葉大権現と刻された石灯籠二基がある。一基は、「寛政八辰天（一七九六）南無観世音菩薩・講中十二名」とある。もう一基は、「明治十三卯（一八八〇）」と刻されている。



埴山毘売命



榛名神社



榛名神社鳥居

●ちち神さま

榛名神社参道を登って行く途中右手の三番目の小さな祠、これが石祠のちち神様である。

右に明和四年（一七六七）丁亥年

正面に□□神□

左に施主 金子勘工門

元は神社裏山の湧水が出る脇に安置されていたのを現在地に移した。

昔の伝えで、其の水でお粥を炊き乳がわりにしたという。乳の出ない母親が遠くから参拝に訪れ、水を持ち帰ったという。古老の話では、ちち神様の水質は、ミネラル分が多く含まれていたのではないかとのこと。

また、以前相武ゴルフ場の湧水の脇にあったお乳地藏二体が、神社階段脇にあったというのが確認されていない。



ちち神様拡大



石碑とちち神様の祠



三面六地蔵

⑬ 三面六地蔵

旧中寺田日南橋（ひなたはし）の脇に、この地では珍しい三面に二体ずつ彫られた柱状の六地蔵がある。地元の人から、関東大震災の時、六地蔵も倒れたと聞いた。正面が少し横向きになっているのは、その後地元の人達による修復でずれたものと思われる。

台座右に 武州多摩郡寺田村

□九戌年 小□般春吉

左に 中組世話人 山本富□□

⑭ 名号塔・徳本

旧中寺田の美代田橋より二百m程上寺田へ行った右側に、徳本名号塔、聖観音、庚申塔がブロック塀内に安置されている。

徳本名号塔には

右に文政六年（一八二三）癸未

正面に南無阿弥陀仏・徳本

左に七月吉日村講中

徳本上人は宝暦八年（一七五八）紀伊国に生まれ、木食修業念仏聖として知られ、八王子にも八基の名号塔が残されている。



三面六地蔵拡大

聖観音は舟形・立像で

正面に文政十三庚寅年（一八三〇）
台座正面には中村女念仏講中
他に、庚申塔が安置されている。



右から徳本名号塔、聖観音、庚申塔

⑮ 東京牛乳

金山橋を渡る道の両側に常和牧場がある。この牧場には、乳牛としてホルスタイン種が飼育されている。子供を産む親牛は二カ月前から乳を搾らないという。母親と、生まれてくる子牛に十分な栄養を与えなければならぬからである。乳牛からは、毎日朝夕二回乳を搾る。

出荷された牛乳は、共同乳業に集められ加工された後、東京牛乳として売られる。



常和牧場



常和牧場

⑯ 鍛冶谷戸と石仏

旧上寺田、金山橋（金谷）付近の地名を鍛冶谷戸という。新編武蔵風土記稿には金山いう小名の地名が見えるが鍛冶跡なのか砂金が採れたのでついたのか判然としない。また金山社なる古跡も今だに不明である。

金山橋旧道の近くには、石仏が安置されている。

地蔵尊は丸彫り・立像で、台座の

右に寛政八辰年七月吉日

正面に女念佛講中

左に上寺田村とある。

庚申塔の笠付柱状・青面金剛像は

右に奉造立青面金剛講中

左に宝暦十拾庚辰（一七六〇）

十月吉日上寺田村

台座右に文政五丑年（一八二二）

四月笠浦

正面に名寄せ十一人

左に笠浦立・施主上寺田村

念佛講中・三十一人とある。



鍛冶谷戸前の地蔵尊



鍛冶谷戸前の地蔵尊と石仏

⑪ いぼ取り地蔵

（縛られ地蔵）

上寺田バス停近く（法政大に進み

右）の畑の脇にいぼ取り地蔵がある。

長年の風雨で表面は摩滅、姿をたし

かめるのが難しい。

笠付柱状の立像

右に宝永三丙戌（一七〇六）

十一月吉日

左に念佛□・南無□

台座表面に横書きで女講中とある。

この地蔵尊に願いを掛ける風習が一風変わっている。左撚（よ）りの縄で地蔵尊を縛りつける。またの名を縛られ地蔵ともいわれている。「一日も早く私のイボを取って下さい。イボが取れたらサヨリの縄を解きます」と願いをするという。



縛られ地

⑱ 上寺田の長屋門

めじろ台グリーンヒル通り上寺田バス停から少し行つた右側の細い道の突き当たりに立派な串田家の長屋門がある。長屋門といえば犬目町の斉藤家、戸吹町の三木家、それに下恩方町の原家が有名である。当時は一部の庄屋や千人同心だけに作るこ



串田家長屋門

⑲ 馬頭尊

縛られ地蔵の道路（めじろ台グリーンヒルズ通り）向かい側にぽつんと馬頭尊が安置されている。笠付柱状で年代は不明だが笠の形から、江戸期の終わりか明治の初め頃と思われる。正面に馬頭尊、左に願主・彦三郎とある。

ところで北野街道の大巻（牧）から旧寺田街道に入り上寺田までの沿道には、馬頭観音や馬頭尊が多い。なかでも、上寺田に集中している。土地の古老の話では「昔は一軒に一頭は飼っていたものだ。農作業や山仕事には欠かすことのできないものだから家族同然大切にしていた。ところが馬が事故や年老いて死んだとき人の墓にはうめられねえから、自分の土地の東か南の角っこに埋めたんさ。」と話していた。



上寺田バス停前の馬頭尊

◎ 参考資料

- ・ 新編武蔵風土記稿
- ・ 武蔵名勝図絵
- ・ 八王子事典
- ・ 八王子の歴史と文化
- ・ 八王子市史
- ・ 八王子発見 中島 善弥著
- ・ 寺田の百姓民話日記 沢田 鶴吉著
- ・ 旧横山村石仏調査報告書
- ・ 国土地理院地図
- ・ インターネット各ページ
- ・ 八王子市郷土資料館資料
- ・ 八王子市地図
- ・ 八王子市観光マップ
- ・ 昭文社